

探しています 品川区内のツバメの巣

ツバメは、30年ほど前までは東京都心で普通に繁殖していました。東京駅周辺の丸の内や大手町をはじめ、上野駅、秋葉原駅、有楽町駅、品川駅、大井町駅、五反田駅など、主な駅で子育てしており、大勢の乗降客がヒナを見守り、その成長を楽しんでいました。しかし、最近では「巣なんか見たことないね」という声ばかり。今でも区内で繁殖しているのでしょうか。繁殖しているとしたら、巣は何個くらいあるのでしょうか。



子育て中のツバメの巣



巣材の泥や藁を運ぶツバメ

ツバメが繁殖するためには、餌となる昆虫（それも飛んでいる昆虫限定）が必要です。また、巣の材料となる泥や藁（わら・植物繊維）も、さらに巣造りに適した建物も必要です。

そして何よりも、ツバメの子育てを見守り、愛護してくれる人の存在が重要です。こうしたツバメが子育てできる環境は季節感があって人にとっても生活しやすく、教育的にも優れた環境といえます。



巣の下の糞受け
ツバメは人に見守られてきた

ツバメの繁殖状況を通して品川区の環境を調べることができるし、環境の変化を知る基礎資料としても役立ちます。はたして区内では、ツバメがどれほど繁殖しているのか、筆者が現在担当している品川シルバー大学いきいきコースの講座「江戸東京の自然観察」の受講生や元受講生を中心に調査中です。ツバメは、ガレージや倉庫の壁や天井、駅や学校などの出入口などに巣造りする習性があります。5～6月は子育ての最中であり、親鳥が盛んに巣に出入りするので見つけやすい時期です。6月22日現在、東急池上線荏原中延駅、立正佼成会品川教会（二葉1丁目）など20カ所で繁殖の情報をいただいています。区内でツバメの巣を見つけたら建物名や住所などを、ぜひ品川区環境情報活動センターまでお知らせください。

唐沢孝一（NPO法人自然観察大学学長）

品川区環境情報活動センターはこちらです



HPのアクセスはこちらから↓



しながわECOだより 2016年度Vol.1

発行：品川区都市環境部環境課
編集：特定非営利活動法人 エコタウンしながわ
発行日：平成28年6月21日
住所：〒140-8715 品川区広町2-1-36 品川区環境情報活動センター内
TEL/FAX：03-5742-6533
E-mail：center@shinagawa-eco.jp
HP：http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう

しながわECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2016年度 Vol.1

環境学習講座のご案内

子ども向け、大人向け講座 開催予定!

小学生向け

ピオトープの作り方

自由研究

- ・ピオトープってなんだろう？
 - ・生き物の棲(す)みかを作るヒントがあります。
 - ・ダンゴ虫と迷路で遊びます。……▶
 - ・自由研究の参考に。
- (3年生以上の小学生と保護者)
【開催日】8月14日(日)
【募集】7月11日から
【講師】佐藤元氏ほか3名 (ピオトープ管理士、造園会社社長)



小学生向け

お天気の不しぎと気象実験

- ・雲や雨などお天気の不しぎを学びます。
 - ・ペットボトルで雲を作る実験を行います。
 - ・気圧を感じてみよう……高い山の上では？
- (1～3年の小学生と保護者)
【開催日】9月19日(月・祝)
【募集】8月21日から
【講師】日本気象予報士会 サニーエンジェルスのみなさん



小学生向け

LEDで飛び出す3D装置作り

- ・人間が立体視できる理由を実験で体感します。
 - ・LEDの3D装置を自作して理解を深めます。
 - ・大好評の久保先生の講座が高学年向けにレベルアップ。
- (4～6年の小学生)
【開催日】10月2日(日)
【募集】9月1日から
【講師】久保利加子氏 (茨城県おもしろ理科先生講師)



天気図の

見方・読み方・作り方

大人向け

- ・気圧とは？雨はどのように降るの？風はどのように吹くの？など、気象の基本を学びます。
 - ・天気図を見て、ということが分かるのでしょうか。
 - ・実際に天気図を描いてみましょう。
- (中学生以上)
【開催日】9月11日(日)
【募集】8月1日から
【講師】平沼洋司氏 (元気象庁予報官 気象予報士)



大人向け

さき布から「ぞうり」を作ろう

- ・受講者に持参いただく古布を使ってオリジナルのぞうりを作ります。
 - ・2日で一足を仕上げる講座です。
- (2日とも参加していただける方、中学生以上)
【開催日】9月22日(木・祝)、23日(金)
【募集】8月21日から
【講師】宮嶋清司氏 (ぞうり研究家)



講座の名称、開催日、内容などはいずれも予定です。応募方法等については「広報しながわ」や品川区環境情報活動センターのホームページに掲載します。
HP：http://shinagawa-eco.jp/

しながわ ECOフェスティバル 2016

5月22日(日)、透き通った青空の下で「しながわ ECOフェスティバル2016」が開催されました。当日の東京の最高気温は29.3℃で、強い日差しが降り注ぎ、日向では夏を思わせる暑さでした。



(1)「ごみゼロ」を目指して

出展者のごみはご自分でお持ち帰りいただきました。ごみの量は毎年低水準を保っているようですが、これには参加者皆さんの協力が第一です。模擬店で買った弁当など、食べた後の容器、紙コップ、割り箸は、使った人が自分で「ごみ・資源回収場所」へ持って行き、分別するのは今や自然な行動になっています。



(2)公園会場の使用電力

公園会場における使用電力は廃油を再利用したバイオ燃料を使った自家発電とグリーン電力によって賄われていました。

(3)エコカー

水しか排出しない次世代エコカー「燃料電池車」と、環境にやさしい「電気自動車」の乗車体験ができ、筆者(環境情報活動センター担当者)も「燃料電池車」に乗車しました。電気自動車もそうですが、走行中は非常に静かでした。どちらも走行中に二酸化炭素を全く排出しないという共通点があり、これまで問題とされていたコストとインフラの整備が進み、今後の実用化がさらに進むことでしょう。



燃料電池車

電気自動車

(4)小学生が保護者と参加したワークショップ

アニメワークショップ、ペットボトルで雲作り実験、絵手紙とけしゴムはんこ作り、アクリルたわしとボンボン飾り作りなど、楽しい工作や実験がありました。



その他にもたくさんの企画があり、参加者は楽しい1日を過ごすことができたと思います。

山中小学校で空き缶踏み

5月19日(木)、山中小学校で毎月1回恒例の「空き缶踏み」が行われました。この活動はPTAが主催し、10:25~10:50の25分間の休み時間を利用して、当番のクラス児童全員が参加して行われます。現在山中小学校は全11クラスで、月ごとに当番のクラスが交代するため、1年で全クラスが1回は行うことになります。今日は6年生(1クラス)の担当です。

空き缶踏みを行うに当たり、先生から「けがをしないよう」「空き缶は足でつぶすこと」「缶をけらないこと、投げないこと、素手でさわらないこと」などの注意の後、



みんなが元気よく缶をつぶした後、PTAの保護者が、踏みつぶした缶を回収し、リサイクル袋に入れました。この後、回収業者に渡します。

空き缶は、児童や保護者、近所の方たちに持ってきていただいたもので、「季節によって、集まる飲料の中身の違いがあるのが面白い」との保護者の方のお話でした。

また、この活動1回で平均20kgほどの重量になるとのこと、1缶15~20gとすると1,000個以上の個数になります。



環境記者 情報交換会

環境記者の皆さんにお集まりいただき、年に3回情報交換会を行っています。6月に今年度1回目の会合を開きました。2006年に始めて以来、30回目の開催となります。

はじめに、まちづくりコーディネーターの佐山吉孝さんのお話を伺いました。本年度は3回に渡って「品川宿」を取り上げます。第1回の今回は、「品川宿1000年の歩み」というタイトルで数多くの画像とともに品川宿の歴史を辿っていきました。



続いて、環境記者の皆さんに、日頃の活動の様子や、興味を持っていらっしゃる事柄についてご報告いただきました。町内会で行っている「花いっぱい運動」、ボランティアグループによる環境整備活動、会社単位の緑化推進、清掃活動などの話題が出ました。また、小規模太陽光発電所事業に取り組んでいる記者さんからは、小売電力全面自由化以降の動向やソーラシェアリングについて伺いました。河川の水質や空き家問題に注目している方もいらっしゃいます。

今回も和やかな雰囲気の中、幅広い内容のお話を伺えて、様々な視点から環境を考えるヒントになりました。

環境記者の投稿記事は環境情報活動センターのホームページに掲載されています。是非ご覧になってください。新しい発見があるはず!

<http://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/>

<「品川区環境記者レポート」で検索>

※環境記者を募集しています。お気軽にご連絡ください。

こんな講座を開催しました

南極を知る、体験する

講師：(株)ミサワホーム総合研究所

南極研究プロジェクト浅野智一氏

浅野さんは第56次日本南極地域観測隊の越冬隊員で、南極(昭和基地)での1年4か月の仕事を終えてこの3月に帰国したばかりです。



南極の環境の特徴は、①寒い ②風が強い ③昼と夜が、ヘン? ということです。

白夜(一日中太陽が出ている日/下写真)と極夜(一日中太陽が出てこない日)があります。白夜の時は、太陽が地平線を東から西に転がるように移動します。



南極の氷は家庭の冷凍庫で作った氷とは違って小さな泡のようなものが見えますが、これは約2万年前の空気が閉じ込められたものです。水を入れて氷を溶かすと、「プチプチ」と小さな音が出てきました。

私たちが知らない南極について興味深い話を聞くことができました。

リサイクルショップ「リボン」をご存知ですか?

「リボン」はNPO法人エコタウンしながわが品川区の協力を得て運営しているリサイクルショップです。



旗の台店

東急池上線・大井町線旗の台駅
南口から徒歩1分
03-5498-7803

「もったいない...」の気持ちを大切に

「ものを大切に使う」をテーマに

洋服、バッグ、雑貨や家具など、ご家庭にある品物の買い取り(旗の台店のみ)や委託販売をしています。「捨てるのはもったいない」、「ご縁があれば他の方に使っていただきたい」、そんな品物がありましたら「リボン」をご利用ください。

お買い得品や掘り出し物をいろいろと揃えています

「リボン」では、みなさまのご来店をお待ちしています。詳細はそれぞれのお店にお問い合わせください。



大井町店

品川区役所第三庁舎
03-5742-6933

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう

しながわ ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2016年度 Vol.2

環境学習講座 ご案内

10~12月の子ども&大人向け講座計画です

小3~6年生

★宇宙旅行の疑似体験と星座早見盤作り

地球を飛び出し太陽系から地球環境を考えます。秋の星座、街中で星を見つけるコツなども話していただきます。



- 開催日/10月23日(日)
- 募集/9月21日から
- 講師/北崎直子氏(星のソムリエ)

小1~3年生と保護者

しながわ中央公園での植物探検と花の万華鏡作り

公園に咲いている植物の観察と普段は見られない公園施設の紹介などもしていただきます。

- 開催日/11月3日(祝)
- 募集/10月1日から
- 講師/中嶋一晃氏(しながわ中央公園所長)



小学生と保護者

間伐材を使ってどんぐり人形を作ろう

間伐材やどんぐりのお話を聞き、区民公園で集められた材料で人形作りをします。



- 開催日/11月20日(日)
- 募集/10月21日から
- 講師/丸山均氏(しながわ区民公園管理事務所所長)

小1~3年生と保護者

卵の殻でチョークを作ろう

身近なリサイクルの例としてチョークをとりあげます。

- 開催日/12月11日(日)
- 募集/11月11日から
- 講師/宮腰義仁氏(環境教育振興会理事)



大人向け

ツバメの生態から見た品川区の環境 観察と発見の楽しみ

区内でツバメの繁殖を調査したところ、思わぬところで子育てしていることがわかりました。

- 開催日/10月30日(日)
- 募集/10月1日から
- 講師/唐沢孝一氏(NPO法人自然観察大学学長)



大人向け

暮らしをセンスアップ! エコでおしゃれな風呂敷活用法

ボトル包み、ティッシュボックス包み、エチケット包み、慶弔包み、リース飾りなどを学びます。

- 開催日/11月13日(日)
- 募集/10月11日から
- 講師/宮木丸美氏(ふるしきマイスター)



大人向け

再生可能エネルギーの現状と課題、将来展望

再生可能エネルギーの宝庫である日本。今後の普及の可能性を探ります。

- 開催日/11月21日(月)
- 募集/10月21日から
- 講師/櫻井啓一郎氏(産業技術総合研究所主任研究員)



大人向け

鉄道写真から見る自然と環境

鉄道写真を通して見える自然や環境について、写真を見ながらお話いただきます。

- 開催日/12月4日(日)
- 募集/11月1日から
- 講師/村上悠太氏(鉄道写真家)



* 講座の名称、開催日、内容などはいずれも予定です。応募方法等については「広報しながわ」や品川区環境情報活動センターのホームページに掲載します。

都会のスズメは どこで寝る？

鳥類の多くは「昼行性の動物」です。昼間に活動し夜は眠ります。もちろんフクロウのように夜行性の鳥もいますが、スズメやカラス、ツバメなどの多くは昼行性であり、日の出と共に起き、夕日と共にねぐらに入ります。では、どこで、どのように夜を過ごすのでしょうか。人のように雨風を防ぐことのできる安全な家やホテルがあるわけではありません。鳥が夜をどこでどのように過ごすのかは、子育てや食物の確保と同様に生存上の重大事です。

スズメの場合は、昔から竹やぶで夜を過ごす群れが定番でした。最近では、駅前の街路樹などに数百羽、時には数千羽もの大群が集まり夜を過ごします。これを「集団ねぐら」といいます。



スズメの「集団ねぐら」
(街路樹のプラタナスに集まってきたスズメ)

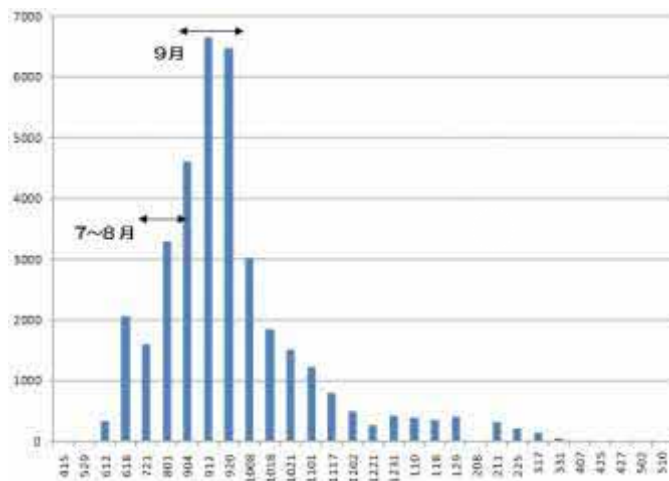
「集団ねぐら」に集まるスズメの個体数を、一年を通して調べてみました(右図)。すると、繁殖が終わる7~8月ごろに増加し、9月に約6500羽に達しました。大部分がその年生まれの若鳥です。10月以降は急減し、冬を越せるのはごく一部でした。木の枝で夜を過ごすため、台風などの暴風雨にさらされるとひとたまりもありません。

台風一過、スズメの死骸が多数落ちていることもよくあります。

では、子育てに参加した成鳥はどこで夜をすごすのでしょうか。これまでの観察で、ビルの看板の裏側、電柱のトランスを支えるパイプ(腕金)、人家の屋根の隙間などでした。どれも1羽で夜を過ごすので「単独ねぐら」と



スズメの「単独ねぐら」
(腕金から顔をだしたスズメ
…白い矢印の先にちょっと
顔を出しています)



JR市川駅前のスズメの集団ねぐらにおける個体数の季節変化
(2013年4月~2014年5月)

唐沢孝一氏(NPO法人自然観察大学学長)

募集中!

区内在住、在勤、在学の方のご応募を
お待ちしております。
詳細は環境情報活動センターまで

E-mail : center@shinagawa-eco.jp
TEL : 03-5742-6533

区民環境記者

桜の開花、紅葉の話題、打ち水、ごみ拾いの地域活動、エコロジー生活の紹介など、広い意味での環境活動、環境イベント情報など、身近な環境情報をメールなどでお寄せくださる方を、区民環境記者として登録します。いただいた記事や写真は、環境情報活動センターのホームページなどに掲載します。

エコサポーター

当センターでは年間30回程度、区民の皆さまを対象とした環境学習講座を開催しております。講座の円滑な運営のためにお手伝いいただける方を「区民エコサポーター」として募集しています。お手伝いいただく内容は、講座で使用する道具や材料の準備、受講者のサポート、講師の補助などです。

目黒のさんま祭り

今年も「目黒のさんま祭り2016」(主催:品川区目黒駅前商店街振興組合、後援:品川区)が、品川区目黒駅前商店街で盛大に開催されました。朝方降った雨の影響で、例年よりはやや少なかったとのことですが、それでも2万人超の来場者がありました。

岩手県宮古市より新鮮なさんま7,000匹に、徳島県神山町からのすだちと栃木県高林の辛味大根の大根おろしが添えられ、長い人では3時間待ちをした人もいたようですが、最高に美味しいさんまに舌鼓を打っていました。



さいたま市から来たとおっしゃるお二人は2時間半待ったとのことでした。でも美味しいさんまに満足されたことでしょう。



食べ終わった後のごみは専用のごみ箱に入れられ、周囲にごみは全く落ちていませんでした。主催者の準備と来場者のマナーに拍手!

発生した大量のごみは、燃えるごみと燃えないごみに確実に分別されていました。



夏休み子ども環境学習講座

生きもの博士になろう

【7月18日/しぜんのイロとカタチであそぼ!】
(小学1、2年生対象)

「どうしてこんな色をしているの?」「この形はどんなときに役立つのかな?」五感を使って生きものたちの色や形について学びました。花や葉を使ってポストカードも作りしました。光にかざすと、まるでステンドグラスのようにきれいなカードです。



【7月22日/昆虫のふしぎな世界をのぞいてみよう!】(小学4、5、6年生対象)

身近に生息する昆虫をじっくり観察!昆虫の体のしくみや多様な生態について学びました。参加者自らセミの抜け殻を採集し、自由研究にも使えるセミの抜け殻標本を作りしました。



【7月24日/身近な鳥のヒミツを知ろう!】
(小学3、4年生対象)

街の中で見られる野鳥のふしぎな生活や体のつきりについて、クイズや観察、骨格標本にふれることを通して学びました。発泡スチロールペーパーを使って、実際に空を飛ぶ鳥のクラフトにも挑戦しました。



気象予報士から学ぶ気象と環境

【7月30日/天気予報にチャレンジ】
(小学3、4年生対象)

空を見て天気予報できるかな?ペットボトルで雲を作ったり、雲の図鑑作りをしました。気象キャスターになったつもりで天気予報をしました。



【7月31日/お天気のふしぎ発見】
(小学1、2年生対象)

お天気クイズとお話の後、ペットボトルで雲を作ったり、雷の音に近い楽器をならしたり、虹(模様)を見ました。風鈴や紫外線ビーズストラップを作りしました。



【8月1日/2100年未来の天気予報】
(小学4、5、6年生対象)

未来の天気予報を聞き、地球温暖化を学び、環境にやさしいスマートシティを考えました。二酸化炭素の温室効果実験を行い、雲画像地球儀を作りました。



講座内容の詳細は、環境情報活動センターのホームページ http://shinagawa-eco.jp/mt_kouza/ をご覧ください。

こんな講座を開催しました（平成28年4～8月）

●緑のカーテンを作しましょう

（一般／4月17日）

講師が自宅で育成した観察記録の写真をしながら育成環境や適温、用土、肥料等の詳しい解説。後半は配られた種の植え付けを行い、残りの作業はご自宅で。



●森と動物のふしぎ

～間伐材の積み木でゲームをしよう

（小学生と保護者／5月15日）

森とそこに棲む動物のつながりや、森を守るために間伐が必要だということを学びました。間伐材をノコギリで切って積木作りをしました。



●南極を知る、体験する

（小学生／6月5日）

第56次日本南極地域観測隊の越冬隊員の講師が、南極（昭和基地）での貴重な経験を話してくれました。南極の氷は、水を入れて溶かすと、「プチプチプチ」と小さな音がして細かな泡が出てきました。



●アート鑑賞とエコ：気楽なコラージュBOX作り

（一般／6月12日）

エコロジーの視点で様々なアートを鑑賞した後、牛乳パックを骨組みとした形や箱に、英字新聞・切抜きなどを切り貼り…♪材料費0円からどれだけ愛着の持てる作品に出来るか？に挑戦しました。



●地球にやさしいエコエンジンを作ろう

（小学生／6月19日）

温度差による気体の膨張・収縮により作動するエコエンジン「空き缶スターリングエンジン」を作りました。



●家庭で実践できる草木染め

（一般／7月3日）

環境負荷の少ない「草木染め」の基礎について学び、予め先生にご用意頂いた玉ねぎの皮を煮だした染液で、輪ゴムを使う簡易的な絞染めを体験しました。



●風鈴とうちわ作り

（小学生と保護者／7月10日）

地球温暖化についてのお話や風を利用して涼をとる体験と実験をした後、古来の夏の風物詩である「うちわ」と「風鈴」を作りました。



●ビオトープの作り方で自由研究

（小学生と保護者／8月14日）

ビオトープとは、自然の中にあり、人がエサや水をやらないでよい状態を指します。しながわ中央公園でダンゴムシを探し、講師が育てたダンゴムシの迷路遊びをしました。



《体験型環境学習講座》

リモコンで光るおもちゃ作り

（小学生と保護者／8月11日）

区内に本社や事業所がある企業のご協力を得て、小学生（保護者同伴）を対象に当該企業内で開催し、普段では目や耳にする機会が少ない企業の事業内容や環境活動の紹介を受け、環境関連の工作などを行う講座です。

SMK株における環境保全の話の後、リモコンでLEDライトが光るおもちゃを作りました。非常に高温になるハンダゴテを使いましたが、これも貴重な体験でした。



<会場>
SMK(株)本社
(品川区戸越)

講座内容の詳細は、環境情報活動センターのホームページ http://shinagawa-eco.jp/mt_kouza/ でご覧いただけます。

しながわECOだより 2016年度Vol.2

発行：品川区都市環境部環境課

編集：特定非営利活動法人
エコタウンしながわ

発行日：平成28年9月20日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/

本紙は、古紙を配合した用紙で作成しています。

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう

しながわ ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2016年度 Vol.3



環境学習講座のご案内

1月～3月の
大人&子ども向け
講座予定

大人向け

賢 江戸落語に出てくる環境

昨年開催の講座で大変好評だった講師から、今年是有名な江戸落語を題材として、江戸の人たちのエコな生活についての断を聞きます。

(対象：一般) *講師著書→

- 開催日/1月22日(日)
- 募集/12月11日から
- 講師/菅野俊輔 (江戸文化研究家)



小学生

遊んで学んで 木と友だちになろう

積み木遊びや簡単な実験を通して、木とふれあい、木の性質を学びます。キーホルダー作りもします。

(対象：小学1年～3年生)

- 開催日/2月5日(日)
- 募集/1月11日から
- 講師/渡辺繭子
(木づかい子育てネットワーク理事・事務局長)



大人向け

古布で作る 手作りふくさ

古い着物を再利用して、祝儀用または不祝儀用どちらかを選んで、ふくさを作ります。

(対象：一般) *作品例→

- 開催日/2月26日(日)
- 募集/1月21日から
- 講師/南朝子 (リメイク絆)



こんな手作り
素敵です♪

小学生

レーウェンフックの顕微鏡を作ろう

小さなガラス玉をペットボトルのキャップにはめこんでペットボトル顕微鏡を作り、玉ねぎの薄皮や百合の花粉等を観察します。

(対象：小学4年～6年生)

- 開催日/3月5日(日)
- 募集/2月1日から
- 講師/杉山仁

(減前理科教室ふしぎ不思議)



春の子ども環境学習講座

小学生

いっしょに学ぼう! 生物多様性

ゲーム、工作、観察や実験などを通して生き物や環境について学びます。

●開催日・対象

①3月18日(土)

(小学1・2年生)

生き物ピラミッドを作ろう!
～ものづくりとゲームで生き物のつながりを学ぼう～

②3月19日(日)

(小学3・4年生)

オリジナル樹木図鑑を作ろう!
～しながわ中央公園の樹木に密着～

③3月20日(祝)

(小学4・5・6年生)

土のひみつを解き明かそう!
～観察と実験～

● 募集/2月11日から

*往復はがきのみ募集

● 講師/SAPIX 環境教育センター



*講座の名称、開催日、内容などはいずれも予定です。応募方法等については「広報しながわ」や品川区環境情報活動センターのホームページにて募集開始日から掲載します。ご応募お待ちしております。

激減した都市のカラス

「最近カラスが減りましたね」「いいえ、うちの方では減っていませんよ」… 増えても減っても話題になるのがカラスです。東京では「生ゴミを散らかす」「人を襲う」といったマイナスのイメージもありますが、食べ物を貯食し、クルミを上空から落とし割って食べるなど、賢い鳥としても注目されています。

カラスは「減ったのか」「増えたのか」「変わらないのか」どうなのでしょう。都市鳥研究会では、1985年以来30年間、東京都心でカラスの個体数を調査してきました。さて、カラスの羽数はどのように数えるのでしょうか。カラスは、夕方になるとねぐらに集まって夜を過ごす習性があります。これを「集団ねぐら」といいます。都心では明治神宮、自然教育園、豊島ヶ岡墓地の3カ所が集団ねぐらとして有名です。特に冬季には、都心のカラスの大部分がこの3カ所のねぐらに集まります。そこで、12月にねぐらを取り巻くように人を配置し、戻ってくる羽数を一斉に数えます。



夕方、豊島ヶ岡墓地（文京区）に集まってきたカラス

1985～2015年の間、5年ごとに個体数を調べた結果が右のグラフです。1985～2000年には右肩上がりに増加し、約3倍に増えてましたが、2000年をピークに減少に転じ、2015年には4816羽となり、30年前よりも減少しました。あたかもバブル経済と共にカラスは増加し、バブル崩壊と経済の減速にともなって減少しているかのように見えます。

カラスが増加した最大の原因は、カラスの餌となる「生ゴミ」などを大量に捨てるようになったことです。一方、2000年以降に減少した原因は、ゴミの減量や分別収集がすすみ、生ゴミをカラスに食べられないようにする工夫(カラスネットなど)が普及したことです。また、カラスの天敵であるオオタカやノスリ、ハヤブサなどの猛禽類が都心で増加したこともカラスの減少要因となりました。

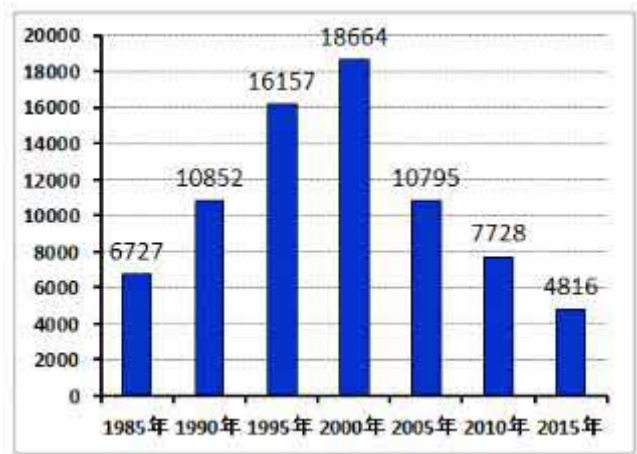


都心の上空でたたくカラスと猛禽類（ノスリ）

都心のカラスの増減は、都民の生ゴミの出し方や生活の仕方に影響されていたことが分かってきました。

(NPO法人自然観察大学学長 唐沢孝一)

東京都心のカラスの個体数変化
(唐沢孝一・他、2016 URBAN BIRDS)



区民環境記者募集中

環境情報活動センターでは、「区民環境記者」を募集しています。

花の開花情報、地域の環境イベント情報、資源回収情報など、身近な環境情報をメールなどでお寄せくださる方を、区民環境記者として登録します。いただいた記事や写真は、環境情報活動センターのホームページなどに掲載します。



区内在住、在勤、在学で環境に興味のある方のご応募をお待ちしています。

詳細は環境情報活動センターまで
E-mail : center@shinagawa-eco.jp
TEL : 03-5742-6533

環境記者レポート



平塚2丁目町会は、商店街・子どもたち・高齢者と多彩な色を持つ町会だが、そのどれもが活気を持ち、明るい。この明るさは何から来ているのか、町会長の志賀勝さんに伺ってみた。



●みんなが楽しむ町会活動

町会の悩みと言えば高齢化。子どもが寄り付かない町会が多い中、平塚2丁目の活動はどうやら違う様だ。毎年3月に行われるチャレンジパークでは、消防署の協力の下、公園で防災を学ぶ。地震や煙を体験し、そして最後にはお餅を食べる。なんとこのイベントは来場者が500名ほどになることも有るとか。また、夏休みには町会会館を使ったお泊まり会もある。ドジョウすくいにそうめん流し、どれも子どもが喜ぶものばかりで、子どもが喜べば親も喜び、自然と地域のネットワークが創られている。

●人にも優しく、環境にもやさしく

平塚2丁目町会の取組は、ただやみくもに人とのつながりを創ろうとしているのではない。

「環境」というテーマを真剣に考え、その活動を通して人とのつながりを創り、さらにその人を豊かにする活動を行っている。その代表例が「花いっぱい運動」で、町会がプランターを無料貸与



町会会館の前も花でいっぱい

し、それを借主の庭先に置いてもらう。手入れをする借主と、その花を見る人の心を豊かにする。町会の人でもそれ以外の人でも関係なく、その地域を歩くと気持ちが明るくなる、というのが狙いだ。また、プランターを渡す時はもちろん、花を育てるにあたって町会とのコミュニケーションも生まれている。

土づくりから自分たちで行い、年4回講師を呼んで花植え講習を開催しており、こういったエコサイクルから平成23年度に環境賞を受賞し、区からも評価されていることがわかる。

その他にも町会会館の屋上緑化や廃材を使ったメダカハウスを会館入り口に置き、メダカをのぞいている子どもたちにはそのメダカを譲っている。



廃土や野菜の残さで熟成土壌を作る



品川区協働事業の助成を受けて取り組んだ「花いっぱい運動」の町会会館屋上緑化。常緑キンソウが育つ。



廃材を使ったメダカハウス。子どもたちが貰って育てる。

(環境記者 新居崎邦明)

環境記者情報交換会

環境記者の皆さんにお集まりいただき、年に3回情報交換会を行っています。11月1日に今年度2回目の会合を開きました。

まず、まちづくりコーディネーターの佐山吉孝さんのお話を伺いました。「東海道品川宿・その風土とまちづくりの視点」というタイトルで、歴史、風土、文化とまちづくりの関係を見ていきました。



次に、環境記者の皆さんに、日頃の活動の様子や興味を持っていらっしゃる事柄について報告していただきました。

40年余りにわたって京浜運河をはじめとした海の貝を観察している記者さんは、運河では106番目となる新たな種類の貝を発見したこと、貝の生育状況を通じて感じる相模湾の海での温暖化の兆候についてお話されました。初開催の京浜運河エレクトリカルパレードや、品川区地域安全のつどいの様子を報告して下さった方もいらっしゃいました。地域や勤務先で行っているものづくり教室、花壇整備、清掃などのボラン

ティア活動の報告もありました。空き家問題に取り組んでいる方からは、この問題の大変さとともに、空き家が集いの場として有効活用されている成功例も紹介していただきました。秋たけなわの運河の鳥や蝶、花々の様子や、変化に富んだ秋の雲の観察といった自然観察のレポートもありました。気象予報士資格を持つセンタースタッフのミニレクチャーもあり、雲の話題は大いに盛りあがりました。

紅葉の季節を迎えるにあたり、環境記者の皆さんに区内の紅葉スポットの取材をお願いしました。自然の移り変わりに目を向けると、地域への関心、愛着が湧いてきますね。

今回も様々な話題で盛り上がりました。それぞれの興味が重なって広がっていき、4か月に一度集うことで相乗効果が生まれているようです。

環境情報活動センターのHPに、環境記者さんの投稿記事が載っています。是非アクセスしてみてください。本紙「ECOだより」を読んでくださっている皆さま、環境記者になってみませんか？どうぞお気軽に環境情報活動センターまでお問い合わせください。

Page2

区民環境記者募集中

をご覧ください。

こんな講座を開催しました (平成28年9~11月)

●天気図の見方・読み方・作り方

(一般/9月11日)

気圧とは？雨はどのようにして降るの？風はどのようにして吹くの？など、気象の基本や、四季の天気図の見方と天気図の作り方をやさしく学び、実際に天気図を描いてもらいました。



●お天気のおふしぎと気象実験

(小学生/9月19日)

曇のいろいろ、雨粒の形、きれいな虹、青空と夕焼けなどのお話の後、ペットボトル、つけもの器、缶コーヒーなどを使って楽しい気象実験を行いました。



●さき布から「ぞうり」を作ろう

(一般/9月22, 23日)

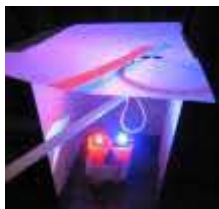
受講者にお持ちいただいた古布を使ってぞうりを作りました。講師オリジナルの作業台を使った2日間にわたる講座でした。ほとんどの方が一足仕上げられ、とても満足そうでした。



●LEDで飛び出す3D装置作り

(小学生/10月2日)

いろいろな種類の3D装置を触って試してみたり、参加型のデモンストレーションや観察を通して体感したりして、人間が立体視できる理由を探りました。また、環境にやさしいLEDを使った3D装置を自作して理解を深めました。



●宇宙旅行の疑似体験と星座

早見盤作り (小学生/10月23日)

国立天文台制作ソフト「mi taka」で地球を飛び出し「宇宙旅行」に出発。地球、太陽、金星、火星……宇宙をどんどん進んでいきました。地球と他の惑星との違いを学び、星座早見盤を作りました。



●ツバメの生態から見た品川区の環境

(一般/10月30日)

今年の春～夏、品川区区内でツバメの繁殖を調査したところ、思わぬところで子育てしていることがわかりました。非常に貴重な調査結果をお話していただきました。



●しながわ中央公園での植物探検と花の万華鏡作り (小学生/11月3日)

公園に咲いている植物を観察。ガーデナーから花壇の花や、見頃の花の説明を受けました。また、竹と公園で採取した花を使って万華鏡をつくりました。



●暮らしをセンスアップ!

エコでおしゃれな風呂敷活用法

(一般/11月13日)

早速役に立つ目からウロコの風呂敷活用法に加え、意外な風呂敷の歴史や豆知識など、講師の歯切れのいいお話に教室は笑いに包まれ、楽しく為になる講座となりました。



●間伐材を使ってどんぐり人形を作ろう

(小学生/11月20日)

どんぐりの話を聞いた後、どんぐりを使って人形作りに取り組みました。バイオリンやギターを弾く人形作りは難しかったけれど、楽しかったと思います。



●再生可能エネルギーの現状と課題、将来展望

(一般/11月21日)

太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱などの再生可能エネルギーについて、明るい見通しと、一方でなかなか進まない現実を知ることができました。



しながわECOだより 2016年度Vol.3

発行：品川区都市環境部環境課

編集：特定非営利活動法人

エコタウンしながわ

発行日：平成28年12月9日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/

講座内容の詳細は、環境情報活動センターのホームページ http://shinagawa-eco.jp/mt_kouza/ でご覧いただけます。

本紙は、古紙を配合した用紙で作成しています。

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう

しながわ ECOだより

品川区環境情報活動センターだより

2016年度 Vol.4

新年度も環境に関する様々な講座を開催します！

環境学習講座 ご案内

大人

緑のカーテンを作しましょう

ゴーヤや朝顔などで緑のカーテンを作ります。鉢に種を蒔くところまでを行い、育てるコツを学びます。

(対象：中学生以上)

- 開催日/4月30日(日)
- 募集/4月1日から
- 講師/丸山均氏(しながわ区民公園管理事務所長)



親子

ぷよぷよをくっつけて香りのピンを作ろう

砂漠の緑化など環境にも役立っている高分子吸水体で遊んで、マジックができる香りのピンを作ります。

(対象：小学1~3年生と保護者)

- 開催日/5月14日(日)
- 募集/4月11日から
- 講師/久保利加子氏(茨城県おもしろ理科先生講師)



大人

巨木が語る環境問題

世界の森林と人や生き物とのかかわりについて学び、美しい写真の中で世界を旅していただきます。

(対象：中学生以上)

- 開催日/6月18日(日)
- 募集/5月21日から
- 講師/吉田繁氏(写真家)



小学生

南極を知る、体験する

元南極観測隊員を招き、“ブリザードの風速”を体感したり、南極の氷に閉じ込められた2万年前の“弾け出る大気の声”を聞いたり…本物を体験できる講座です。(対象：小学生 *3年生以下は保護者同伴)

- 開催日/6月11日(日)
- 募集/5月11日から
- 講師/元南極観測隊員(株)ミサワホーム総合研究所



南極観測船「しらせ」

小学生

地球にやさしいエコエンジンを作ろう

温度差による気体の膨張、収縮で作動するエンジンです。空き缶を利用して作ります。

(対象：小学4~6年生)

- 開催日/7月2日(日)
- 募集/6月1日から
- 講師/新井俊雄氏(コンセプトプラス(株)代表取締役)



スターリングエンジン

小学生

おもちゃde 教えて!遊んでエコ工作

‘ガシャポン’の空カプセルを使ってはんこを作る工作にチャレンジ。

(対象：小学2~4年生 *3年生以下は保護者同伴)

- 開催日/6月25日(日)
- 募集/5月21日から
- 講師/岩村剛氏(株)バンダイプロダクトマネジメント部



大人

知って楽しむLED教室(実践編)

9月の防災の日を前に、ライト付救急箱を製作します。

(対象：中学生以上)

- 開催日/7月9日(日)
- 募集/6月11日から
- 講師/小宮章利氏(照明コンサルタント)



講座の名称、内容などはいずれも予定です。最新の情報は、環境情報活動センターのホームページをご覧ください。2か月先までの講座をご案内しています。「広報しながわ」には募集開始日に掲載されます。

都会に適応したヒヨドリ

ヒヨドリという皆さんはどんな印象をもっていますか。「ツバキや桜の花で蜜を吸う可愛い鳥」「ピー-ヨ、ピーヨと鳴いてうるさい鳥」「家庭菜園のブロッコリーやキャベツをついばむ困った鳥」など、いろいろかと思いますが、



河津桜の花の蜜を吸うヒヨドリ

品川区内でも普通に見られるヒヨドリですが、以前は、東京都心では冬の鳥であり、春には山野に戻って繁殖していました。ヒヨドリが街中でも繁殖するようになったのは1970年代以降のことです。ヒヨドリにとって都会は住みやすい環境になったようです。

ヒヨドリは何でも食べる「雑食性の鳥」であり、都会にはいろんな食べ物があります。春から夏には昆虫をよく捕らえます。都会にも多いアブラゼミを追い立て、飛び立ったところをキャッチします。公園や人家には花や実のなる木も多く、秋から冬にはアオキやピラカンサなどの果実を食べ、冬にはサザンカやツバキなどの花の蜜を好んで吸います。そして、いよいよ食物が乏しくなる1月下旬～3月にはキャベツやブロッコリーなどの野菜やエゾノギシギシなどの雑草の葉もついでに食べます。食べられた葉の痕を見ると「V字状」をし

ておりヒヨドリの嘴の形と一致します。さらにパン屑やクッキーなどの人工食品を食べるなど、食事のメニューを増やしてきました。

ヒヨドリの食性で特に注目したいのは「ユズリハ」の葉です。皇居・東御苑では何羽ものヒヨドリが飛来して葉をついばみ、丸坊主になりました。なぜ狂ったように



ユズリハの葉をついばむヒヨドリ



ヒヨドリに葉をすっかり食べられたユズリハ

ユズリハを食べるのは分かっています。葉には毒性のあるアルカロイド類が含まれているため、麻薬のような中毒症状にかかってしまうのかも知れません。皇居だけでなく自然教育園（港区）、明治神宮（渋谷区）でもユズリハが食べられており、品川区戸越1丁目のあるお宅でも庭のユズリハが食べられました。

ヒヨドリが、いつ、どんなものを食べるかを観察し、都会の環境についても考えてみましょう。

(NPO法人 自然観察大学学長 唐沢孝一)

環境記者活躍中 マンションごみ置き場の清掃管理 (現役管理人から)

マンションでは、家庭から排出されるごみは集積所に出され、それを管理人が分別して回収に出しますが、結構苦労しています。中には全く分別が行われていないごみ袋(可燃、資源、不燃ごみが一緒)や中身が入ったままのガラス瓶、宛名の付いたダイレクトメール、中身の残っているガスボンベ製品等があります。

困るごみの種類と対処方法を挙げてみます。

- ・住所氏名の入ったもの、特にビニール袋に入ったもの・・・宛名ラベルを剥がして、紙と資源プラスチックに分類します。
- ・中身の入っているガラス瓶・・・中身を取り出して洗浄し、きれいにして回収出来るようにします。



- ・中身の入ったガスボンベ・・・中身を抜いて空にして不燃ごみに入れます。
- ・可燃ごみ内に見られる不燃ごみ・・・取り出して分別します。
- ・資源プラスチックごみ内に見られる金属付帯ごみ・・・取り出して分別、又は分解して金属とプラスチックに分別します。資源プラスチックごみとして出されていても中身が残っていたり、特に汚れのひどいものは可燃ごみへ

この他にもいろいろありますが、回収時にあまりにひどいと回収されずラベルを貼られて置いて行かれます。結局、いやでもやらざるを得ないのが現状で、他のマンションの管理人に聞いてもどこも同じで困っているとの事です。

きちんと分別してくれる人もたくさんいる中で、分別のモラルを守ってほしいと願っています。微々たる事ですが地球温暖化防止に役に立てばと思っています。

(環境記者 青野良平)

環境表彰式

平成29年2月25日(土) スクエア荏原

環境保全活動顕彰は、今年度から実施し、区内で環境保全に関する優れた活動をされている企業、個人、団体を顕彰し、その活動を広く区民の皆様を紹介することを目的としたものです。

もったいない選手権は、優れたアイデアをいただいた方を表彰するものです。

今年度は企業大賞1件、企業賞1件、地域大賞1件、地域賞3件、もったいない選手権最優秀賞1名が選ばれました。



環境保全活動顕彰

地域大賞「しながわ花海道の継続運営」

平成18年より勝島運河の緑地を清掃し、花壇に花を植え、街並みを美化することで地域にうるおいとやすらぎを提供しておられます。

しながわ花海道の自然



春は菜の花 秋にはコスモスが咲き誇る



永尾章二様

企業大賞「日産グリーンショップ活動」

2000年度より「日産グリーンショップ活動」として制度化し、人とクルマと自然の共生を環境理念とした取り組みを行っておられます。



日産東京販売ホールディングス(株)
東京日産自動車販売(株) ご発表：松本光之様
日産プリンス東京販売(株)
日産プリンス西東京販売(株)

日産(メーカー)の環境活動

■ ニッサン・グリーンプログラムと日産グリーンショップの関わり。



日産はグローバルな自動車メーカーとして、自らの企業活動が直接・間接的に及ぼす影響を把握し、最小化していくことに取り組んでいます。

地域賞

「地域猫対策活動」西品川二丁目会 猫基金グループ

「ECO循環サイクルを中心とした“花いっぱい運動”」

平塚二丁目町会 花と緑の部

「リサイクル活動」喜楽会

企業賞「地球温暖化防止に関する活動」

第一三共(株)品川研究開発センター

もったいない選手権最優秀賞

喜多智子様

各家庭で使っていない傘を集め、「わ!しながわ」のステッカーを貼り、区内公共施設で再利用するアイデア。

リサイクルショップ「リボン」

洋服、バッグ、雑貨や家具など、ご家庭にある品物を出品しませんか。

「捨てるのはもったいない」「ご縁があれば他の方に使っていただきたい」、そんな品物がありましたら「リボン」をご利用ください。

詳しくは下記までお問い合わせください。

旗の台店：旗の台5-13-9 03(5498)7803

大井町店：広町2-1-36 区役所第三庁舎 03(5742)6933

平成28年度はこんな講座を開催しました

環境情報活動センターでは、「環境」をテーマとした楽しい講座を開催しています。みなさまのご参加をお待ちしています。

一般		小学生	
開催月	テーマ	開催月	テーマ
4	緑のカーテンを作りましょう	5	間伐材の積み木でゲームをしよう
5	【園芸講座】春の寄せ植え	6	南極を知る、体験する
6	気楽なコラージュBOX作り	6	地球にやさしいエコエンジンを作ろう
7	家庭で実践できる草木染め	7	風鈴とうちわ作り
9	天気図の見方・読み方・作り方	7	リモコンで光るおもちゃ作り
9	さき布から「ぞうり」を作ろう	7	生きもの博士になろう①②③
10	ツバメの生態から見た品川区の環境	7・8	気象予報士から学ぶ気象と環境①②③
11	エコでおしゃれな風呂敷活用法	8	ビオトープの作り方から自由研究
11	再生可能エネルギーの現状と課題、将来展望	9	お天気のおしぎと気象実験
12	鉄道写真から見る自然と環境	10	LEDで飛び出す3D装置作り
12	【園芸講座】お正月の寄せ植え	10	宇宙旅行の疑似体験と星座早見盤作り
1	江戸落語に出てくる環境	11	しながわ中央公園での植物探検と花の万華鏡作り
2	古布で作る手作りふくさ	11	間伐材を使ってどんぐり人形を作ろう
		12	卵の殻でチョークを作ろう
		2	遊んで、学んで、木と友だちになろう
		3	レーウェンフックの顕微鏡を作ろう
		3	いっしょに学ぼう！生物多様性①②③(*)

講座内容の詳細は、環境情報活動センターのホームページ http://shinagawa-eco.jp/mt_kouza/ でご覧いただけます。

鉄道写真から見る自然と環境

(一般/12月4日)

プロ写真家による美しい鉄道と自然の写真を観賞しながら、気象条件が見せてくれる美しい世界や撮影の仕方について話を伺いました。



卵の殻でチョークを作ろう

(小学生/12月11日)

卵の殻をリサイクルしたチョークを作り、その体験を通して3R推進のための不用品の分別排出についてお話ししていただきました。



江戸落語に出てくる環境

(一般/1月22日)

現代と違い、捨てるという発想のない時代のお話を落語を中心に楽しくお話ししていただきました。

遊んで、学んで、木と友だちになろう

(小学生/2月5日)

クイズをして木の特性を学び、積み木のゲームや、ひのきのエンピツキーホルダー作りを通して木を身近に感じました。



本紙は、古紙を配合した用紙で作成しています。

古布で作る手作りふくさ

(一般/2月26日)

古い着物などを再利用して、華やかなお祝い用(祝儀袋)のふくさを作りました。



レーウェンフックの顕微鏡を作ろう

(小学生/3月5日)

直径2mmのガラス玉をペットボトルのキャップにはめ込んで顕微鏡を作り、玉ネギの薄皮・豆もやし・ニンジン細胞を観察しました。



(*) 3月10日現在予定

しながわECOだより 2016年度Vol.4

発行：品川区都市環境部環境課

編集：特定非営利活動法人

エコタウンしながわ

発行日：平成29年3月15日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/